

## 今月の特集

家族と一緒に  
成長する家

春は卒業や進学、就職などで子どもの成長を感じる季節。

子育てをする家庭では子どもの成長に合わせて

住まいの使い方も変化していきます。

そこで今回は、子ども部屋の役割とその変化について考えてみましょう。

家族の成長に合わせて変わる  
子ども部屋の使い方

家の新築は現状の理想だけでなく、先々の家族の状況を想像して計画する必要がありますが、10年・20年・30年後を考えるのは難しいものです。「あの時、こうしておけば良かった…」と後悔しないためにも、しっかりとしたプランニングが大切です。

少し前まではハイハイをしていた赤ちゃんが、つかまり立ちをしたかと思えば、すぐに家の中を駆け回ります。スポーツや音楽などの習い事をはじめたり、家庭学習、お友達との遊び、二段ベッドからそれぞれの個室へ…。この時期、子どもの成長とともに生活スタイルが目まぐるしく変化します。そんな生活の変化に対応するため、家づくりは、子どもの成長を想像することからはじめてみましょう。

幼児期は、主寝室にベビーベッドを置いて一緒に寝るので、当面、子ども部屋は夫婦の趣味の部屋として活用することができます。二人目の子どもができてはじめて、上の子を子ども部屋で就寝させることになるため、それまではスペースを贅沢に使うことができます。下の子が大きくなっても、しばらくは二段ベッドに二人で寝ることを考えれば、子どもの寝室とプレイルームを、別に使い分けても

良いでしょう。スペースに余裕があれば、吹き抜けの2階にマルチルームを設けてそこを遊び場にすれば、子どもの気配を感じながらキッチンなどで家事をすることができるので安心です。

FPパネルが可能にする  
自由度の高い空間づくり

学童期ともなれば、それぞれの個室で就寝することになるので、今まで子ども部屋を趣味の部屋としていましたが、主寝室や1階の空いたスペースを見つけて移動することになります。

子どもが思春期に差し掛かると、プライバシーを保つため、それぞれの個室に机を持ち込んで勉強と就寝が一室でできるよう個室を利用します。子どもが独立して家を離れ

るときは、子ども部屋だった個室が解放されるので、ゲストルームや収納スペース、ホームシアターなどに活用して生活を充実させることができます。このとき、個室の間仕切りを簡単に外して大部屋にできるような仕様にしておけば、さらに有効に個室を活用できるのではないのでしょうか。

「FPの家」は、FPウレタン断熱パネルにより、隙間なく頑丈な住まいづくりが可能のため、間仕切りのない大空間を作るなど、自由度の高い家づくりができます。また、屋根用のオリジナルパネルを使うことで小屋裏を活用できる空間をつくるのが可能になります。長く住む家だからこそ、長く快適に過ごせる「FPの家」で家族の未来を見据えた家づくりをしてみませんか？

